

II. 用具・手具

1. 脚立

(1) ステップで足を滑らせ転落

1. 脚立 (1) ステップで足を滑らせ転落 ①

29

リンゴ園において、排水路そばで脚立を用いてリンゴの木の葉摘み作業をしていて、脚立から下りた際足を滑らせ排水路に転落。その際コンクリートの排水路の角に右掌を強く打ちつけ右掌の母指と示指の付け根部に裂傷を負った。

(平成26年9月下旬 午後3時頃、男性・79歳)

事故の概況

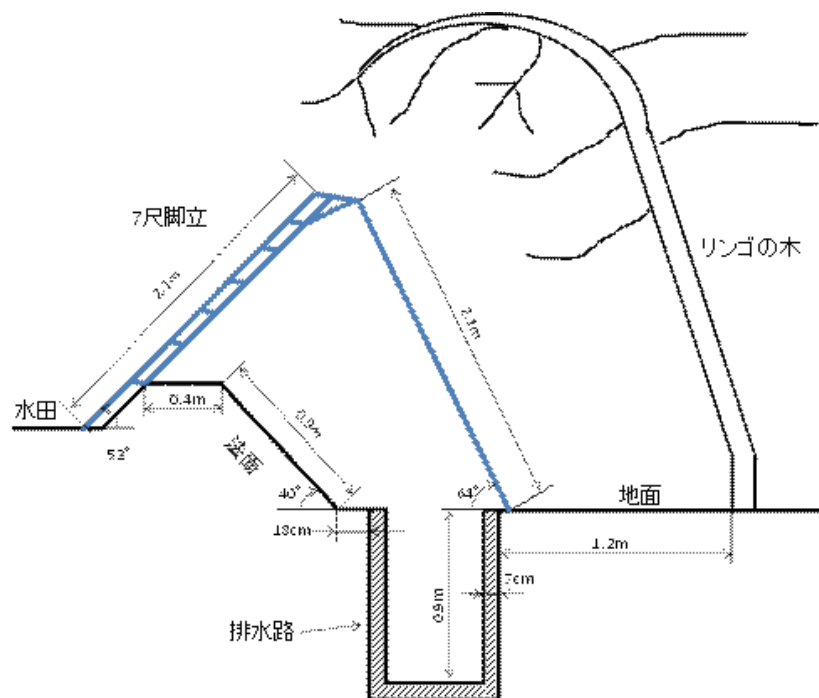
果樹園で脚立を用いてリンゴの木の葉摘み作業を行っていた。作業を一通り終え脚立から降りようとした際に足を滑らせ、そのまま真下の排水路に転落した。転落した際にコンクリートの排水路の角に右掌を強打、母指と人差し指の間(母指丘)付近に裂傷を負った。

事故発生後、患部からの出血量が多かったため、持ち合わせていた手ぬぐいで患部をぐるぐる巻きにして止血。自分で軽トラックを運転し15分ほどのところにある総合病院へ向かい縫合処置をしてもらった。今では見た目ではわからないほど完治した。右掌母指と示指の付け根部に裂傷、通院3回。



事故原因と対策

深さがある排水路の真上での作業であったため、落下する危険性はあった。また、排水路をまたいで脚立を設置したのが悪かった。葉摘みをしていたリンゴの木は排水路のすぐ近くに植えられており、枝が排水路近くまで伸びていて、排水路をまたいで脚立を設置するほかなかった。



1. 脚立 (1) ステップで足を滑らせ転落 ②

30

リンゴ園において、七尺の脚立に昇り、リンゴの玉回し作業を行っていた。脚立から降りる際にバランスを崩し後ろ向きに転落した。その際に腰と後頭部を地面に強打した。頭はなんともなかったが腰部に打撲を負った。

{平成26年10月下旬 午後2時頃、男性・71歳}

事故の概況

平成10年頃植えた矮化リンゴの果樹園で、七尺の脚立に昇り、脚立の天板と上から1段目に足をかけてリンゴの玉回し作業を行っていた。作業を終えて脚立から降りる際に、下から2段目か3段目で足を滑らせてバランスを崩し、後ろに転落した。その際、腰から落ちて後頭部も地面に強打した。当日、隣の果樹園で作業していた人が、脚立の倒れる音を聞いてすぐに駆けつけてくれた。

頭部は何ともないようだったが、背中全体が痛んだ。特に腰、背骨の右側下のあたりがひどく痛んだため、しばらく寝ていたが、なんとか西側の線路脇の方まで這って行き、線路の向こうに駐車していた原付バイクで帰宅した。

自分で病院に行けないくらい痛みがあった（自宅であっていた）ので奥さんに連絡を取り病院に連れて行ってもらおうかと思ったが、奥さんは当日実家に行き、その後スーパーに買い物に行っていたので、すぐには帰ってこられず、16時過ぎに帰ってきた。16時15分頃奥さんの運転で病院へ送ってもらい、16時30分に湯浅整形外科の救急外来を受診した。腰部打撲と診断され、痛み止めを3週間分処方してもらった。痛み止めで痛みは治まった。2週間後に再度来るよう言われた。全部で3回通院した。



天板、2段目に足をかけて玉回し作業を終え、2、3段目に降りたとき足が滑り転落。腰と後頭部を強打。両脚の傾斜角76°、ステップは7°下向きに傾斜、開脚防止チェーンは掛けず。

事故原因と対策

事故当時は晴れていたが前日は雨が降っていたために地面が滑りやすくなっていた。水滴が靴裏に付着し、脚立も滑りやすい状態となっていた。また、脚立の脚を通常よりすぼめた状態で作業を行っており、足場部分に傾斜がつきすべりの原因となっていた。靴はいつも長靴を着用していたが、事故当日は靴底が平坦なすべりやすい短靴を履いていた。

(2) 脚立が倒れる

1. 脚立 (2) 脚立が倒れる

3 1

リンゴの摘花作業時に脚立で作業をしていて左に倒れた。ジャンプして地面に降りたが、特に怪我は無かった。
(平成23年6月 午前10時頃、女性・60歳)

事故の概況

傾斜地の圃場で単独で三脚の脚立に昇ってリンゴの摘花作業をしていたとき、脚立が左に倒れたので、ジャンプして地面に着地した。脚立の近くにはアルミ製の一輪車があったが、脚立がぶつかって左の持ち手が壊れた。脚が地面に食い込むので、開脚防止チェーンは使っていなかった。事故時の体調は平穏で、焦りもなくラジオを聞きながら作業していた。



事故原因と対策

やや傾斜地で脚立の安定が悪かった。最初に脚立を設置する時に、最下段のステップに乗ってトントンの踏み込みをしたか否か。脚立を安定に設置する基本を徹底する必要がある。また、今回は特に頭部の外傷はみられないものの、脚立作業は高所作業で有りヘルメットの着用が必要である。

上から2段目で摘花作業をしていて、脚立がぐらつき、ジャンプして飛び降りた。ステップ側の脚立斜度69度、1脚側71度、開脚防止チェーンは掛けておらず



園地は、右から左へ15°、9°、2°程度傾斜している。

2. はしご

(1) 踏み棧が外れる

2. はしご (1) 踏み棧がはずれる

32

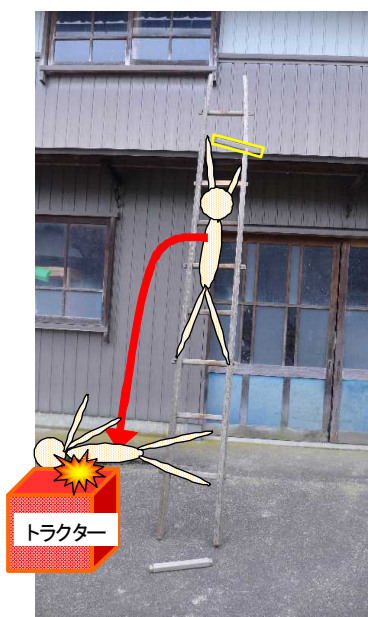
畑用の藁を作業所の2階に取りに行き、はしごから降りる時、握っていたはしごの棧が外れ、落下、落下した所にトラクターがあり、ロータリーに背中を強打。背部打撲。

(平成27年5月中旬 15時頃 作業小屋 女性・62歳)

事故の概況

畑に使う藁を作業小屋の二階(2.5mの高さ)に取りに上がった。はしごを立てかけるとき、天井部分にしっかり固定しようと、何度かはしごを横に振って立てかけた。一度藁を取りに行き、藁を土間に落とし藁を畑に運搬。もう少し藁が足りなかったので、再度、二階に昇った際に、上から2番目の棧・段を持って2階に上ろうとしたとき、その棧が縦木のほぞ穴から抜けて、そのまま、地上に落下し置いてあったトラクターのロータリーに背中から落下。

夫の親族の葬儀もあって、夫の車で病院に着いたのは午後5時頃、本人のみ病院で診察。幸い骨には異常がなかった。打撲箇所は、両腕の付け根を真横に結んだ一直線の位置。とにかく腕があがらなかった。その後接骨院に2週間通院。電気や背部のマッサージを受けた。腕が上がるようになったのは、翌年に入ってヨガ体操にかようになってからだった。



はしごの長さ365cm
棧の横幅 30cm
段と段の間隔 35cm
上下段は端から40cm
立てかけた時のはしごの斜度 72.5°
上から2段目のはしごの棧を持って上に昇ろうとして、その棧が外れ、当人が、そのまま落下。
その棧の位置は、はしごの地上設置面から3m、垂直の高さは2.7mの位置。
落ちたところにトラクターが置いてあり、そのロータリー部(地上65cmの高さ)に背中を強打した。



ロータリーの横幅は、160cm、チェーンボックスに駆動を伝える部分に背中から落下した。地上から65cmの高さ。

事故原因と対策

はしごは、何十年も前から使っていた木製はしご。縦木に対して横木(棧・踏み棧)がはめ込んで有り、2本に1本が楔で止めてある。外れたのは楔の無い横木。楔の打ってある横木も、所々楔が外れており、縦木から横木が外れやすい状態であった。

昔は冬場に農具の点検などが行われ、春からの農作業に備えていたが、現在ではそのような農作業のサイクルが無く、いきなり使うことが多い。農具などの定期点検の時期をあらかじめ決める必要があると考えられる。なお、事故当時の服装は、長靴、作業服、女子帽であった。落ちた高さは約2mあり、高所作業に該当しヘルメットの着用が必須。

(2) はしごが倒れる

2. はしご (2) はしごが倒れる ①

33

小屋の屋根の雪下ろしをしようとして梯子を4段上ったところで、梯子が右側に滑り、地面に落ちて右足のかかとを単純骨折した。

(平成25年2月 午後2時半頃 作業小屋 女性・62歳)

事故の概況

小屋の屋根の雪下ろし(1mくらいの雪が積もっていた)をしようとして木製の梯子を4段目で、梯子が屋根との接触部で右側に滑り、自分も転落、動けなくなり、右足の踵を骨折した。

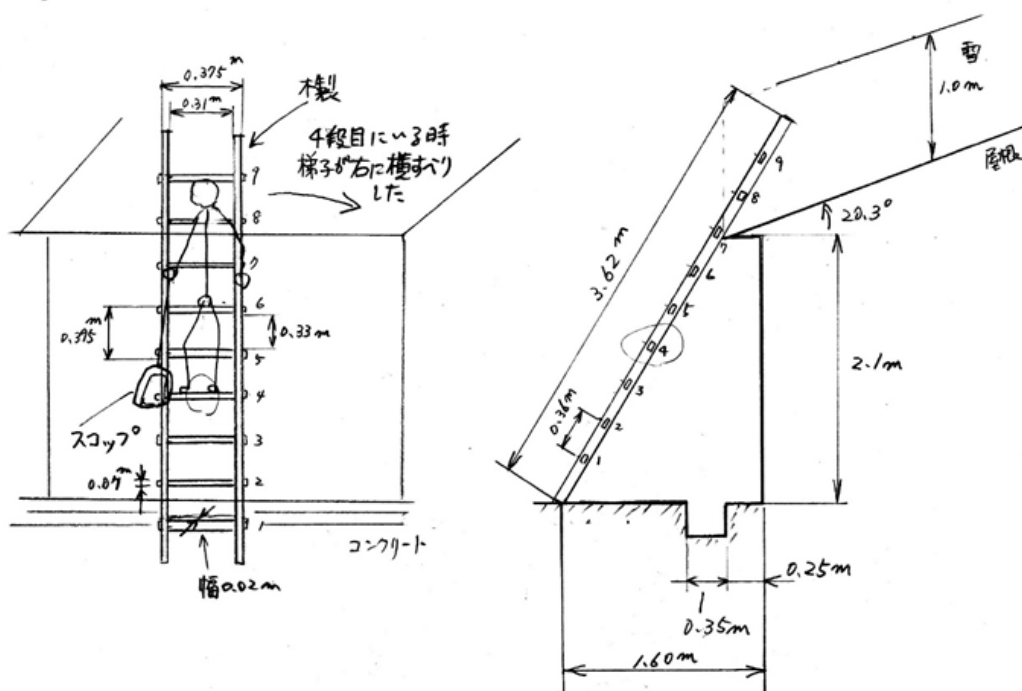
いつもは主人が下で梯子を支えていたが、その日はいなかった。当日地面は雪がなく、コンクリートがむき出しになっていた。

数分してから主人が来て、防寒着を着せて軽トラで個人病院へ搬送。長靴は毎年新しいのを買うので、このときも新しいものを履いていた。右足の踵の単純骨折で、治療はギプスのみであった。その日と1週間くらい通院し、その後はリハビリを行った。現在は完治した。



事故原因と対策

現在は人に捉まえてもらって昇っている。梯子には滑り止めが必要と思われる。



自宅の作業小屋にて、はしごに昇っているときに、はしごが滑り、そのまま落下し、右足のくるぶしを打撲した。

(平成22年4月下旬 午前8時半頃 作業小屋 男性・64歳)

事故の概況

苗代に育苗箱を設置しようと思っていた。自宅作業小屋の2階にあるビニールトンネルのビニール引きはがし用具を取ろうとして、鉄製の梯子を昇っている時、床面が濡れていたため梯子が滑りそのまま床面に落下し、右足のくるぶしを打撲した。奥さんは苗代にいて、自分は一人作業していた。事故当時の服装は、作業着で田植え長靴、手袋を着用していた。

午前中痛みをこらえて作業したが、昼食後歩行も困難になり、妻の運転する車で整形外科専門病院に行った（当日は日曜日で救急を受け付ける整形外科専門医に行った）。骨には異常が無かったが、ギブスをしてもらい鎮痛剤を飲んだ。2週間後にギブスは取った。痛いときは薬を服用し、6月頃には正常になった。現在は完治している。

事故原因と対策

種まき中の慌ただしい時期で急いでおり、ハウスでも育苗していたがトンネルの方の作業を先にしようと思った。風があるとトンネルのビニールが吹かれて作業が大変になると焦りがあったことと作業後で床がぬれていて滑りやすかったことが背景にある。事故後は、梯子が滑らないよう、床が濡れているときは下に何かを敷くようにした。



なお、鉄製のはしごはおそらく乾燥機に使われていた物であり軽量であるので多くのところで気軽に使われているが、滑りやすくこれまでも多くの事故が報告されている。特に上端の支えが軽い分しなって不安定である。その改善策として、上端にフックを取り付け安定化する方法も一方である。

3. 鎌

3. 鎌

35

自宅裏の畑でフキを一鍋分収穫しようとして、葉の部分を揃えて7～8本左手に持ち、右手に持った鎌で葉だけを切り落そうとして左手の小指を切った。

(平成27年5月下旬 午前8時半頃、女性・73歳)

事故の概況

フキを一鍋分取ってこようと自宅裏にある畑にサンダルを履いて出かけた。ちょうど40～50cmと食べごろになったフキを7～8本とり、葉の部分を揃えて左手に持ち、右手に持った鎌(160g、柄の長さ35cm、刃渡り30cm)で、下から救い上げるような形で葉を切り落そうとして、左手の小指の付け根を切ってしまった。

隣の人(以前大工をしていた人)に鎌を研いでもらったばかりで、鎌は良く切れた。切ってしまったとき、しばらく血が止まらなかった。指を強く押さえ、血が止まるのを待って、水道で血を洗い流し、タオルで巻いて我慢していたら、ご主人になぜ病院に行かないのかと叱られた。ご主人の車で病院に連れて行ってもらった。筋がきれているということで、麻酔をして5針縫った。その後、添え木をして包帯で巻いたので、大怪我をしたようだった。週に2回通院した。左手小指切創、5針縫合、通院4日。

事故原因と対策

朝は何かと忙しく、なぜ、鎌を下から葉を切るような形でしたのかよく覚えていない。せっかく葉を揃えて持ったので、上から葉を切り落すようにすれば、怪我をすることはなかったのに、いつもは必ずそうしているのに、残念でならない。

怪我に直接関係はないが、愛用の鎌はいつも研いでもらっているのだから、よく切れた。

裏の畑であり、近いこともあってサンダルで出かけた。

ちょっとした時間、ちょっとしたこと、という安易な気持ちがあった。刃物を持つときには、危険がいつもあることを自覚する必要があった。



左手にフキを持ち、下からすくい上げるように鎌を振り、左小指を切った。

4. 雪降ろし用具

4. 雪降ろし用具

36

リンゴの木の雪下ろし（雪べらのカギに枝をひっかけて引っ張りゆする）で柄が2回外れて2回とも大腿を直撃したので、右大腿内側が黒くなって歩けなくなった。

（平成3年1月上旬 午後4時頃、男性・40歳）

事故の概況

当日はたまたま昼から仕事が休みだったので、雪が1.2mほど積もっていた自宅裏のリンゴ園のリンゴの木の雪下ろしをしようとして、カップを身につけ、かんじきを履き、雪べらのカギに枝をひっかけて引っ張りゆすって、枝に積もっていた約40cm位の雪を下ろしていた。この時、雪べらの柄が2回たて続けに外れて2回とも同じ位置の右大腿内側を直撃した。2回目は大腿骨まで達したようで右大腿内側が黒くなって歩けなくなった。単独作業であった。3時の煙草休みはとった。

怪我した当日の晩は、患部が黒くなり、寝られなかった。翌朝、妻に病院に連れて行ってもらった。入院7日通院2日で完治した。

事故原因と対策

当時、午前中は宅配作業を行い、また牛も飼っていて忙しく、焦っていた。その年は雪が多かったので、かんじきを履いていても膝くらいまで足が埋まり、身動きがとれない状態であった。

その後は、雪べらの柄の取り回しに注意し、余り振り回さないようにしている。時間に余裕を持って作業する。1時間以内で別の場所に移動している。



雪べらで、リンゴの枝に約40cmほど積もった雪を引っかけて引きずり降ろしていた。事故時、2回空振りし、勢いよく右大腿内側を直撃、2回目は大腿骨に達するくらいの打撃。（雪べらのサイズ：柄の長さ：1.2m、べら：縦35cm、横17cm）